

第36回価格.comリサーチ『冬のボーナス2009』結果

冬のボーナス推定支給額は前年比1割減の52.2万円、全額カットは約6%

大企業と中小企業、支給額に倍近い差も

ボーナスの使い道、1位は“商品購入”78.0%、2位は“貯金”73.7%

購買意欲は依然高いものの、節約消費傾向がより顕著に

株式会社カカコムが運営する購買支援サイト「価格.com (<http://kakaku.com/>)」が実施したユーザーへの意識調査「価格.comリサーチ」より、第36回調査『冬のボーナス2009』から、結果を一部抜粋の上、ご案内します。更に強まる金融不安の中で企業業績も悪化し、冬のボーナスも更なる減額が予想される中、今回も価格.comユーザーに対し支給状況、用途などについて調査を行いました。

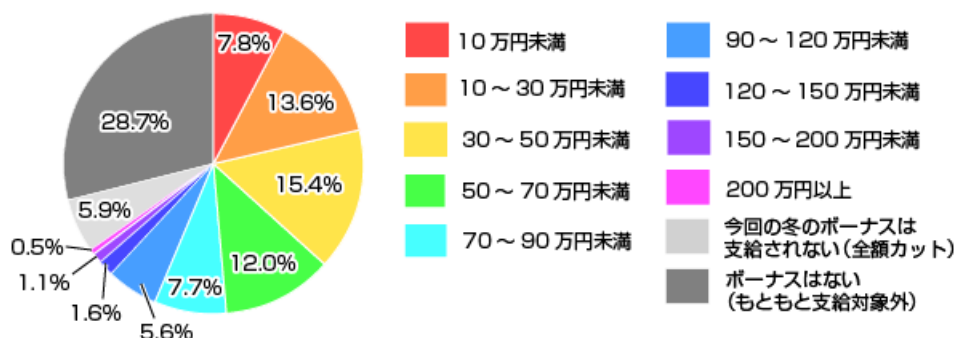
詳細結果：<http://kakaku.com/research/backnumber036.html>

推定支給額：前年比1割減の52.2万円、全額カットは約6%

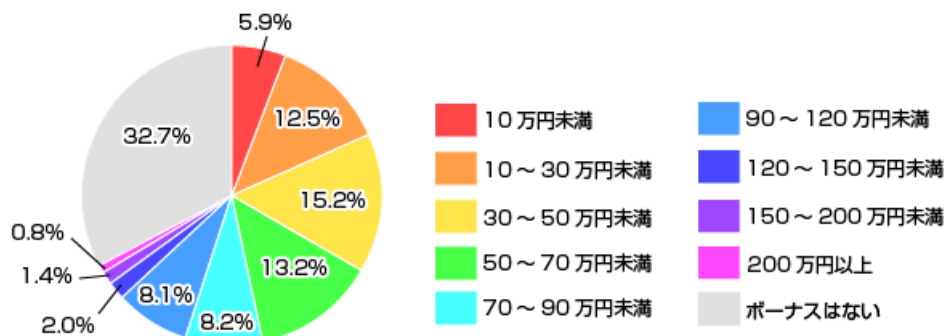
2009年冬のボーナスの推定支給額の全体平均は「52.2万円」となり、昨年2008年冬の「58.0万円」を大きく下回る結果になった。かなり厳しい経済状況を反映した結果といえるだろう。

もっとも多いゾーンは「30～50万円未満」で、これは今までと変わらないが、その次に多いのは、その下の「10～30万円未満」となっており、これまで次点につけていた「50～70万円未満」のゾーンを上回った。「10万円未満」というゾーンも、昨年の5.9%から7.8%へと上昇しており、全体的に、ボーナス額の減少傾向が見て取れる。また、「今年の冬のボーナスは支給されない（全額カット）」という人も5.9%おり、かなり厳しい状況がうかがえる。

【図1-1. 2009年冬のボーナス推定支給額（全体）】



【図1-2. 2008年冬のボーナス推定支給額（全体）】



すべての世代・性別で推定支給額が減少、50代は平均約11万円減額

推定支給額を性別・年代別・家族構成別に見ると、すべての種別でボーナスの推定支給額は減少している。年代別では20代・30代・50代が軒並み10%以上減額されており、特にボーナス支給額がもっとも大きい50代は、-14.1%で約11万円減る結果となった。家族構成別に見ると、「夫婦のみ」「夫婦+子供」という世帯の減少率が高いが、これは共働きを行っている世帯では、夫婦合わせた減少額が大きくなるということに起因するものと思われる。

【図2. 冬のボーナス推定平均支給額 性別・年代・家族構成別（税込金額）】

		2009冬(万円)	2008冬(万円)	増減(万円)	前年比
全体平均		52.2	58.0	-5.8	-10.0%
性別	男性	53.9	59.7	-5.8	-9.8%
	女性	40.0	45.2	-5.2	-11.4%
年代別	20代	33.4	38.5	-5.1	-13.2%
	30代	43.2	48.5	-5.3	-11.0%
	40代	59.3	65.2	-5.9	-9.0%
	50代	66.8	77.7	-10.9	-14.1%
	60歳以上	42.9	46.1	-3.2	-7.0%
家族構成別	単身	40.7	41.8	-1.1	-2.6%
	夫婦のみ	50.9	57.5	-6.6	-11.4%
	夫婦(またはどちらか)と子供	58.8	66.7	-7.9	-11.8%
	三世帯	51.6	56.6	-5.0	-8.8%
	その他	38.8			

業種別の推定支給額：夏からの減額トップはソフトウェア・情報サービス業（-12.0%）、金融業は3.4%増

業種別の推定支給額を、今年2009年夏の調査結果と比較した。減少率が高かったのは「ソフトウェア・情報サービス業」の-12.0%。ほかの業種では、下がっても3%未満で、夏に比べるとプラスになっている業種もあるが、「ソフトウェア・情報サービス業」だけが突出してボーナス支給額が下がるという結果になった。

※回答者が100名以上の業種のみで比較しています。

【図3. 2009年冬と2009年夏のボーナス推定平均支給額 業種別（税込金額）】

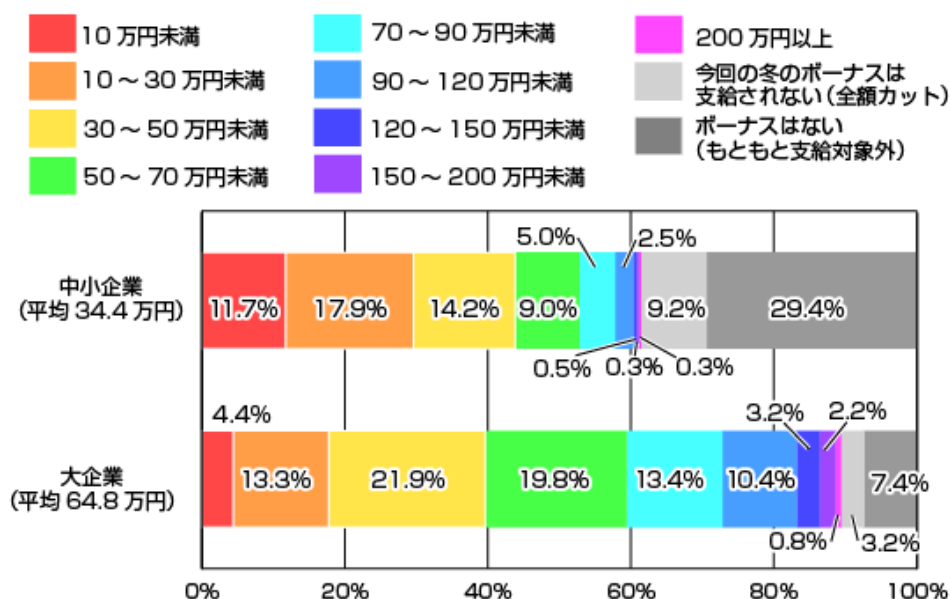
		2009冬(万円)	2009夏(万円)	増減(万円)	前期比
全体平均		52.2	53.6	-1.4	-2.5%
業種別	金融業	79.5	76.8	2.6	3.4%
	国家・地方公務員	65.3	65.2	0.1	0.2%
	公益法人・財団法人	58.2	57.3	0.9	1.6%
	製造業	54.5	56.0	-1.5	-2.7%
	ソフトウェア・情報サービス業	49.3	56.0	-6.7	-12.0%
	医療業	48.9	49.5	-0.6	-1.2%
	卸売・小売業	42.9	43.0	-0.1	-0.2%
	サービス業	40.2	40.1	0.1	0.2%

企業規模別の推定支給額：大企業平均 64.8 万円、中小企業平均 34.4 万円 支給額に倍近くの差

さらに、勤務先の企業規模別に冬のボーナスの推定支給額を出した。企業の規模が大きくなればなるほど、ボーナスの推定支給額は増大する傾向にあり、50 人未満の小企業では 34.5 万円程度であるのに対し、社員 5000 人以上の大企業になると、76.5 万円程度までアップする。従業員 300 人未満の中小企業と、それ以上の規模の大企業とで比較すると、中小企業の場合、平均が 34.4 万円に対し、大企業は平均 64.8 万円となり、ほぼ倍近い差が開くことになる。規模の大きな企業のほうが、体力があり蓄えも可能なのだろうが、小企業ほどボーナス支給の状況は厳しいという実態が明らかとなった。

※この調査では従業員 300 人未満の企業を中小企業、従業員 300 人以上の企業を大企業としています。

【図 4. 2009 年冬のボーナス推定支給額の金額帯（企業規模別）】



■企業規模別の推定平均支給額（税込金額）

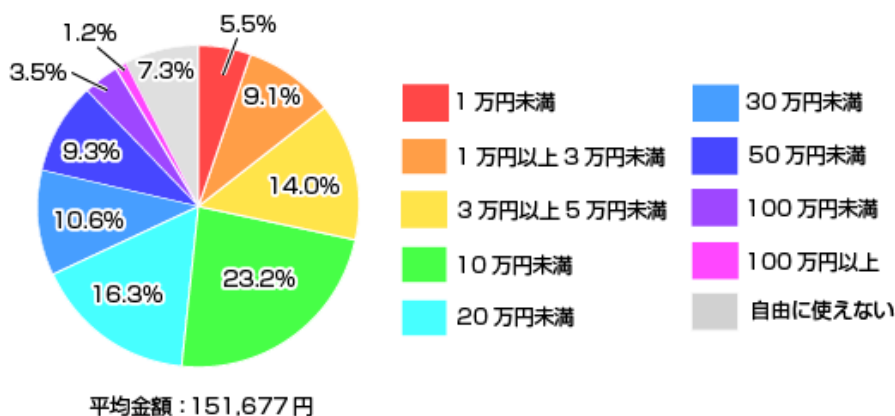
図表は右記URLにてご確認頂けます <http://kakaku.com/research/backnumber036.html>

自由に使えるお金：平均 151,677 円、「10 万円未満」が半数以上

支給予定のボーナスのうち、税金やローン返済、生活費の補填などの必要経費を除いた、実際に自由に使える金額がいくら残るかを聞いた結果、全体の平均金額は 151,677 円となった。

もっとも多いゾーンは「5 万～10 万円未満」(23.2%)で、次いで「10 万～20 万円未満」(16.3%)、「3 万～5 万円未満」(14.0%)となっている。「10 万円未満」だけで半数以上の 51.8%にのぼっており、昨年と比べても自由に使える金額はかなり減少していることがわかる（昨年は 10 万円未満で半数以下の 45.8%）。また、「自由に使えない」も、昨年の 5.1%から 7.3%へと 2.2 ポイントも上昇している。

【図 5. 税金、ローン返済・生活費の補填などを除いた、実際に自由に使える金額をお選びください】



約9割が「自由に使えるお金が減っている」と回答

自由に使えるお金に対する実感については、半数以上の53.4%が「減っている」、36.3%が「やや減っている」と回答し、合計で9割近くの89.7%が減っていると感じている。昨年はもっとも多かったのが「やや減っている」で42.8%、「減っている」が38.8%で、合計81.7%であったことを考えると、約1割増加したことになる。昨年から比べると「やや」から「減っている」へと、明確に悪化の傾向を示しており、「厳しい」と言われた昨年末に比べてもなお一層厳しい家計への影響がありそうだ。世代別でも、「減っている」の割合が5~6割近くにのぼり、税金、ローン返済・生活費の補填などといった必要経費の額が多い40~60代は「減っている」と感じる割合が9割を超え高くなっている。

■実感として、ボーナス支給額のうち、自由に使えるお金は昨年と比べ増えていますか？

それとも減っていますか？

詳細グラフ、世代別集計結果は下記 URL にてご確認ください

<http://kakaku.com/research/backnumber036.html>

「自由に使えるお金」への満足度：前年よりやや悪化、約8割が「不満」

自由に使えるお金に対する満足度については、上記のような厳しい状況を反映して「非常に不満」が41.9%と前年結果（38.6%）より増加しており、「やや不満」の37.5%を上回る結果となった。ただし、「やや満足」「非常に満足」を合わせた割合は20.6%存在し、昨年の22.9%より若干減少したものの、全体的な満足度は「若干悪化」という程度に収まっている。フリーアンサーで多かった回答は「この景気状況の中でもらえるだけありがたい」「少ないが出るだけまし」といった意見が非常に多く、「けっして金額に満足はしていないが、なんとか節約して乗り切りたい」という、どちらかといえば前向きな意見も多く見られたのが印象的だ。

■自由に使えるお金についてどの程度満足されていますか？

詳細グラフは右記URLにてご確認ください <http://kakaku.com/research/backnumber036.html>

ボーナスの使い道：1位「商品購入」（78.0%）、充てる金額は73,812円

冬のボーナスをどのような目的で使うか、その金額がどれくらいになるかについては、「商品購入」がもっとも多く78.0%の人が回答しており、その平均消費金額は73,812円。また「貯金」も73.7%にのぼっており、平均151,496円が貯金に充てられることがわかった。金額的にもっとも大きいのは「ローン返済」で、全体の45.8%にのぼる人が、平均183,520円を返済に充てている。また、「子供の教育費」も全体の35.7%が平均110,504円を消費すると回答している。逆に、回答が少なかったのは、「金融商品の購入」（9.8%）、「旅行・外出（海外）」（7.0%）、「金融商品の補填」（6.1%）となった。「国内旅行・外出」に関しては全体の36.4%が回答しており、平均50,543円を消費するとしている。

【図6. ボーナス支給額のうち以下の項目にどのくらいの金額を使うご予定ですか？（複数回答）】

ボーナス消費目的	この目的にお金を使う人の平均消費金額(円)	この目的にお金を使う人の割合(%)
ローン返済	183,520	45.8%
貯金	151,496	73.7%
金融商品(投資信託、株式等)の購入・外貨預金など	127,883	9.8%
旅行に行く・外出する(国外)	117,722	7.0%
子供の教育費	110,504	35.7%
金融商品(投資信託、株式等)の補填	98,589	6.1%
商品を購入する	73,812	78.0%
旅行に行く・外出する(国内)	50,543	36.4%

ボーナスが減った際に抑える出費：1位「商品購入」(70.6%)、次いで「貯金」(45.4%)

ボーナスが減った際に抑える出費として回答がもっとも多かったのは「商品の購入」で、70.6%とダントツ。さらに、「貯金」(45.4%)、「旅行・外出をする(国内)」(40.0%)と続く。やはり、ボーナスが減ると真っ先に減らされるのは、「商品の購入」にかかる予算であることがうかがえる。

■ボーナスが減ったためにやめる、もしくは出費を抑える使い道をすべてお選びください

詳細グラフは右記URLにてご確認頂けます <http://kakaku.com/research/backnumber036.html>

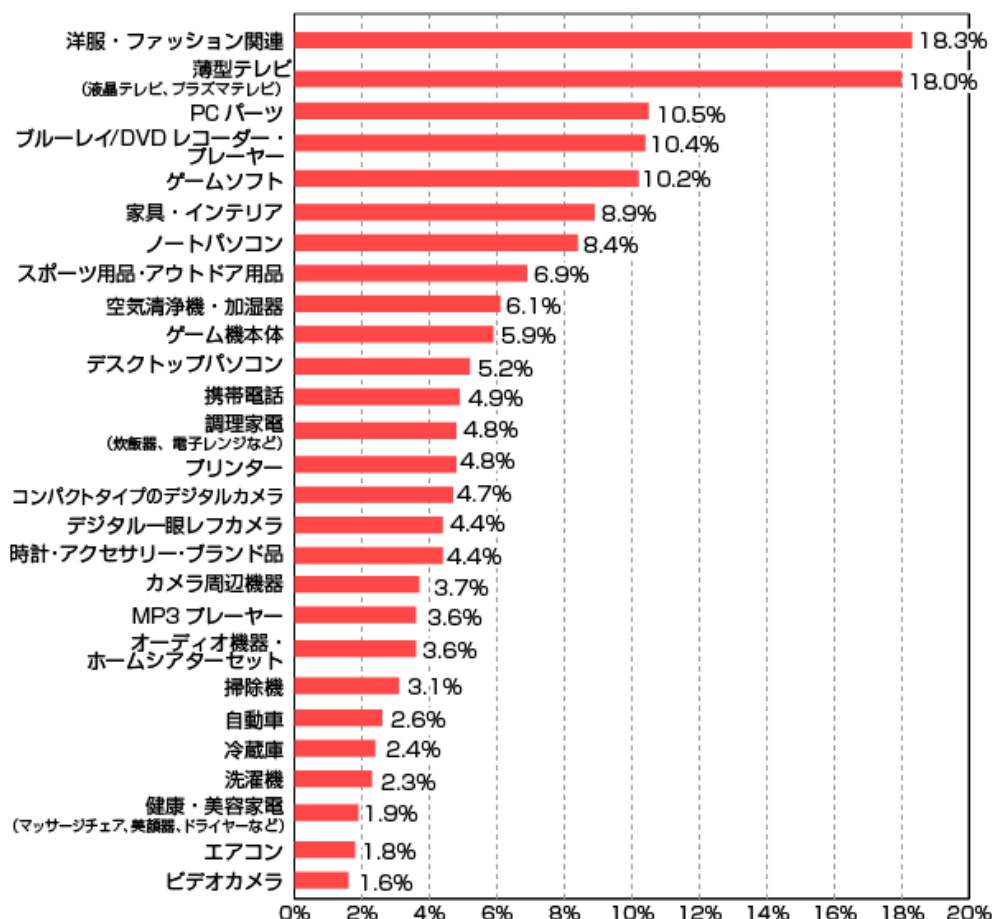
ボーナスで購入したい商品：「薄型テレビ」の低価格モデルが売れ筋の中心に？

冬のボーナスで購入したい商品のトップは、例年通り「洋服・ファッション関連」で18.3%となったが、注目すべきは同じくらいの割合で次点につけた「薄型テレビ」(18.0%)だろう。今回から、液晶テレビとプラズマテレビを「薄型テレビ」として1つの回答項目にまとめたのだが、それにしても高い割合である。今年の夏のボーナスの調査でも「液晶テレビ」だけで17.5%と非常に高い割合を示していたが、その勢いは年末まで引き継がれているといえそうだ。エコポイントの後押しもあり、今年の年末商戦は、液晶テレビが売れ筋の中心となることはほぼ明らかな結果である。商品購入にかけられる金額がおおよそ10万円以下という状況を考えると、32V型～37V型くらいの10万円を切る低価格モデルが中心となって売れていきそうだ。

また注目したいのは、9位にランキングしている「空気清浄機・加湿器」(6.1%)。昨年冬の調査では項目としてあげておらず、今年初登場でゲーム機本体などを上回る割合を示したのは驚かされた。これも、今年世界的大流行を示している新型インフルエンザの影響であろう。また、Windows 7が発売されたばかりの「パソコン」については、「ノートパソコン」が8.4%とほぼ横ばいに対し、「デスクトップパソコン」に関しては5.2%と、昨年よりもややポイントを上げた。パソコンに関しては、デスクトップモデルを中心に昨年よりもやや購買意欲が高めと言えそうだ。

逆に、昨年よりも割合が減少したのは、「デジタルカメラ」「デジタル一眼レフカメラ」だ。数年前までは上位にランクされる人気製品だったが、昨年末の調査に引き続き、今年は更に4.7%、4.4%にまで下がってしまった。すでに多くの人が所有し、買い換える必要も特になくという状態にある今、あえてボーナスでデジタルカメラを購入しようという人は少なくなっているようだ。

【図7. 今冬のボーナスで購入する商品（複数回答・ボーナス支給者全体）】



調査方法・パネルについて**【調査期間】** 2009年11月19日(木)～2009年11月24日(火)**【調査エリア】** 全国**【調査対象】** 価格.comID 登録ユーザー**【調査方法】** 価格.com サイトでの Web アンケート調査**【回答者数】** 7,897 人**【男女比率】** 男 87.1% : 女 12.9%**【雇用形態】** 正社員 : 64.9%、契約社員 : 3.6%、派遣社員 : 1.3%、パート・アルバイト : 5.1%、
自営業・個人事業主など : 11.1%、学生 : 2.1%、主婦 : 3.9%、その他 : 8.0%**【調査実施機関】** 株式会社カカコム**■総評（抜粋） 鎌田剛 カカコム メディアクリエイティブ部 部長****==一部抜粋==**

今年 2009 年冬のボーナスの推定支給額だが、全体の平均では「52.2 万円」となった。昨年 2008 年冬の調査では「58.0 万円」だったので、約 5.8 万円ダウンという厳しい結果となった。今年は景気悪化が年初から叫ばれており、夏のボーナスの調査でも「53.6 万円」という結果が出ていたが、状況はさらに悪化していると見ることができる。なかには、「ボーナス全額カット」などの厳しい状況の方も 5.9%おられるなど、全体的に非常に厳しい経済状況をうかがわせる結果となった。

これだけ支給額が減少しているため、自由に使える金額も当然ながら減っており、その平均金額は 151,677 円となった。昨年の調査では約 20.5 万円だったので、こちらも約 5.5 万円のダウン。ローン返済や子供の教育費などの必要経費は変えられないので、結局、ボーナスの減少分はそのまま消費に使えるお金の減少につながっている。ただしそんな中でも、必要なものは節約しながら購入するという人が多く、全体の 78.0%の人が、ボーナスの一部を「商品購入に充てる」と回答した。商品購入にかけられる予算の平均額は 73,812 円。多くの人が 10 万円以下の予算で商品購入を考えており、あまり高い買い物はできないというのが正直なところだろう。

※詳細結果、総評全文および過去のリサーチアーカイブは以下 URL をご参照ください**<http://kakaku.com/research/>****【価格.com データ】** (2009 年 10 月末現在)月間利用者約 2,090 万人、月間ページビュー約 7 億 8,044 万 PV、累計クチコミ件数約 1,000 万件
複数ショッピングモールの商材を横断検索できるサービスを含めた掲載商品数は約 5,832 万点**【本件に関するお問い合わせ先】**株式会社カカコム 広報担当 甲斐 内山 e-mail: pr@kakaku.com Tel:03-5805-7511